

	文法・語法	語彙	待遇表現
先史		『魏志倭人伝』には後代と同じ語彙成分が見出される 語構成・音韻の特徴も同じ	
上代	確認されている動詞活用型は8種（下 一段は見出せず） 後の四段動詞の活用語尾は、已然形は 工列乙類、命令形は甲類（つまり上代 特殊仮名遣いの時代は五段だった）	主として百済経由で仏教・儒教の漢籍 がもたらされ、 呉音の漢語 が定着 音訳の梵語（サンスクリット・パーリ 語） 推古朝以降の大陸との往来により 漢音 が流入	素材敬語のみ （対者敬語の確かな用例 は見出せない）、 絶対敬語の時代 神や超越者に関する接頭辞「mi」
中古	動詞活用が9種に。 助動詞・補助用言・複合サ変動詞の発達 形容詞カリ活用・形容動詞（ナリ活用とタリ活用）が発生 中期が古典文法の時代Ⅱ後代の文語文の規範となった時代 倒置表現が固定↓ 係り結び 法則の確立↓係り結びが普及し、倒 置であることが忘れられていく↓連体止めによる余情表現の普 及（↓次代、係り結びの崩壊） 動詞・形容詞の 音便形 が発生、後期から普及	齋宮忌み詞（記録に残る 位相語彙 としては極めて古い） 漢語が普及、混種語も増加 漢音が朝廷により奨励され、仏教用語や日常語として定着した 語を除き、漢音が主流になる 漢文脈・和文脈では語彙が区別されて使われる	敬語法の発達。天皇などに対する最高（最上）敬語から目下へ の敬語まで、待遇を細かく表現。二方面敬語も 対者敬語（聞き手尊敬） の発生

	文法・語法	語彙	待遇表現
中世	<p>可能動詞の萌芽</p> <p>の消滅により四段動詞の五段化)</p> <p>融合で才列長音化(↓次代、開合の別</p> <p>意志推量の助動詞ムの子音脱落↓母音</p> <p>段化傾向</p> <p>用とシク活用が一つに・二段動詞の一</p> <p>容詞において連体形が終止形を兼ねる</p> <p>係り結び法則の混乱・崩壊↓動詞・形</p>	<p>末期、ポルトガル語等の南蛮語伝来</p> <p>女房詞・武者詞</p> <p>唐(宋)音の漢語が伝来</p> <p>漢語の一般化。和文脈・漢文脈の語彙</p> <p>の混用(和漢混清文)</p>	<p>少なくとも中世末までは絶対敬語、格</p> <p>助詞による待遇(ガはウチ・非尊敬扱</p> <p>い、ノはソト扱い)が残る</p>
近世	<p>現代語と同じ助動詞がほぼ出揃う</p> <p>口語において可能動詞が成立</p> <p>定形+バ) 旧已然形が「仮定形」に変化</p> <p>衰える↓仮定表現が変化(未然形+バ↓仮</p> <p>前代、確定条件を已然形+バで表す用法が</p> <p>段化。活用型が現代と同じ5種に</p> <p>口語では四段動詞が五段化、二段動詞は一</p>	<p>蘭学を通じオランダ語が継続して伝来</p> <p>身分制を反映し位相語彙が発達</p> <p>江戸言葉が発達。町人階級が流行語を生む</p> <p>江戸武士階級の言語変種が一部社会で共</p> <p>通語化</p>	<p>相対敬語が発生?</p> <p>対者敬語が発達</p>
近・現代	<p>五段動詞・一段動詞の区別の混乱(ラ抜き・サ入</p> <p>られる(ラ抜き)</p> <p>可能動詞が一般化。一段動詞からも可能動詞が作</p> <p>「接続助詞テ+補助動詞」が融合↓話し言葉にお</p> <p>いて助動詞化(ちやう・とく・てる等)</p> <p>外来語や略語を語幹とする複合サ変動詞・形容動</p> <p>詞の大量発生</p>	<p>戦後は片仮名語による借用が増</p> <p>和製英語・外来語の略語・混種語の増加</p> <p>若者が流行語を作り、マスコミが広める</p> <p>大量の西欧語が流入。漢語による翻訳借用・造語</p> <p>も盛ん。台湾・朝鮮半島・中国等へも伝播。太平</p> <p>洋戦中「敵性語排斥」による漢語への言い換え</p>	<p>一部の地方・社会を除き、相対敬語に変化</p> <p>デスマス等の対者敬語を多用。素材敬語の衰え</p> <p>尊敬語と謙讓語を混同する傾向</p>

